

テイク おおだしアクション

— 行動を起こす！ —

大田市共創のまちづくり行動指針

おおだの共創アクション！

- 同じ目的・目標に向かって対話を重ねながら、みんなで一緒に取り組む！
- 共創の第一歩は、日ごろからのおつきあい。人と人との関係づくりを大切に
にする！
- 勇気をもってチャレンジし、チャレンジする人をみんなで応援する！
- 危機感を共有し“変わるリスクより、変わらないことのリスクの方が大きい”
という認識で取り組む！
- わたしたちのまち「大田市」に誇りを持ち、おおだの子どもたちの未来の
ために行動する！

はじめに

「『共創』でつくる“おおだ”の未来」

令和2年3月

「第2次大田市総合計画」において、まちづくりの基本姿勢として掲げた「共創」という言葉。これは、浜田市の名誉市民でシャープの副社長を長らく務められた佐々木正氏が、「これからの時代は、独りよがりの「独創」ではなく、多くの人と一緒にあって共同で物事を創り上げ、成し遂げていく発想が大切である」という想いで創られた言葉です。

私たちを取り巻く環境が目まぐるしく変化していく現代において、私は、大田市を今後も“みんなが幸せに暮らせるまち”にしていくためには、まさにこの「共創」こそが不可欠であると考えています。さまざまな人々の対話や議論から生まれる多様な意見やアイデアこそが、これからのまちづくりには必要です。

これから本市で「共創のまちづくり」を進めていくにあたり、このたび、大田市の「共創」の基本的な方向性や進め方を示した行動指針を策定しました。市役所の若手職員を中心としたプロジェクトチームが創り上げたこの指針には、「共創」の効果や取り組み方、理想とするイメージなどに加え、このまちで幸せに生きるために共に行動する同志である市民のみなさんと市職員の「共創」についても示しています。この指針に基づき、市民・事業者・行政など、大田市に関わるすべての人の「共創」で、新しいまちづくりを進めてまいります。

みんなの「共創」で、笑顔と夢があふれる“おおだ”の未来を、共につくっていきましょう。

大田市長 楫野 弘和



100人で語る「共創」ミーティング

目次

第1章 大田市の共創のまちづくり

1 共創のまちづくりと第2次大田市総合計画

- (1) 総合計画の中に込められた「新しいまちづくり」への想い 1
- (2) 総合計画における「共創」の位置づけ 1

2 大田市の共創

- (1) 大田市の共創とは 2
- (2) なぜ共創が必要? 2
- (3) 指針の必要性と位置づけ 2

第2章 共創の視点から見る大田市

1 大田市の現状

- (1) 大田市全体の現状と課題 3
- (2) 大田市役所の現状と課題 3

2 めざす大田市の共創（こうしたい！こうありたい！）

- (1) めざす大田市の共創のイメージ 4
- (2) めざす大田市役所の共創のイメージ 5
(大田市全体の共創に向けて、まずは市役所から！)

第3章 共創するために

1 共創の効果

- (1) 共創のメリットや効果 6

2 共創の基本

- (1) 共創を支える情報の共有と見える化 7
- (2) 共創するための基本的なフローと大切なポイント 7

第4章 共創の輪の広がり

1 共創の理解と実践の輪を広げる

- (1) 市役所・市職員の役割 8
- (2) 市民の役割 8

2 共創の輪を広げていく体制

- (1) 市役所の推進体制 9
- (2) 共創に取り組みやすい環境づくり 10
- (3) 共創のまちづくりに取り組む仲間づくり 10

指針の策定にあたって 11

第1章 大田市の共創のまちづくり

1 共創のまちづくりと第2次大田市総合計画

(1) 総合計画の中に込められた「新しいまちづくり」への思い

大田市は、平成31年3月に第2次大田市総合計画を策定し、新たなまちづくりがスタートしました。

この総合計画に掲げた大田市の将来像「**子どもたちの笑顔があふれ、みんなが夢を抱けるまち“おおだ”**」。

これは、“めざすまちのイメージ”を表したものです。

総合計画では、この将来像を実現するために、みんなが“かかわり”、現状から一步“踏み出し”、自分たちのまちをみんなで“はぐくむ”、新しいまちづくりに取り組んでいこうとする思いが、理念として込められています。

(2) 総合計画における「共創」の位置づけ

第2次大田市総合計画では、めざす将来像を実現するために、大田市の新しいまちづくりの取り組み姿勢として「共創」を掲げました。これは、これからの大田市のまちづくりが、全ての分野において「共創」の姿勢で取り組むことが基本となることを表しています。



2 大田市の共創

(1) 大田市の共創とは

めざす将来像の実現に向けて、子どもから高齢者まで、年齢、性別、職業、国籍などを問わず、さまざまな人が、一緒に楽しく夢を語り合いながらアイデアを出し合い、市民・事業者・行政など、“おおだ”に関わるすべての人たちが一緒に汗をかきながら、ひとつずつ形にしていくことです。

(2) なぜ共創が必要？

人口減少が進み、さらに地域の元気が失われていく可能性が大きい現在の大田市においては、ただ、“今までどおり”を続けていくだけでは、まちや地域を守り続けることはできません。今後もわたしたちの大田市を守り、次の時代に引き継いでいくため、また、将来にわたって子どもたちが誇れるまちであり続けるためには、わたしたち一人ひとりが、自分たちのまちについて考え、まちづくりに関わり、まちづくりを楽しみながら、みんなでまちの未来を一緒につくっていくことが必要です。そのため手法が「共創」です。

みんなの「共創」でつくる未来の大田市には、きっと子どもたちの笑顔があふれているはずですよ。

(3) 指針の必要性と位置づけ

「共創」による新たなまちづくりを実現するためには、「共創」についての基本的な考え方や取り組みの姿勢について、みんなが共通の理解や認識を持ちながら、一緒に行動していくことが必要です。そこで、ここに行動指針を策定しました。この指針を「共創のまちづくり」の基本とします。

また、この指針は、大田市を取り巻く情勢や課題の変化、「共創」の取り組み方についての検討など、よりよい「共創のまちづくり」を模索し続ける中で、柔軟に見直しを行っていきます。

第2章 共創の視点から見る大田市

1 大田市の現状

(1) 大田市全体の現状と課題

大田市ではこれまで、高齢化の進行や市民ニーズの多様化、厳しい財政状況や職員数の削減を背景に、行政が担ってきた市民ニーズを、市民や団体、事業者などと行政が、役割と責任を分担し、協力しながら対処していく「協働」によるまちづくりを進めてきました。

協働から始まった、市民や事業者、行政などが協力して課題に取り組む形は、本市においても様々な取り組みの中に取り入れられてきました。また、その取り組みの形をベースとした、新しい取り組みも生まれてきています。

しかし、現状に目を向けると、未だ、地域の活力が蘇った、元気な大田になった、と言える状況にはありません。今後さらに人口減少が進み、地域の活力が低下することが予想される中で、明るく元気な大田市を取り戻し、本市を将来にわたって持続可能なまちにするためには、よりいっそう力を合わせた取り組みが必要です。

みんながかかわり、今より一歩踏み出して、まちをはぐくむ「共創のまちづくり」が求められます。

(2) 大田市役所の現状と課題

共創のまちづくりを進めていくうえで、重要な役割が求められる市役所の現状においても、同じ目的・目標に向かって一緒に語り合い、アイデアを出し合いながら形にしていく「共創」が、必要な場面でいつもできているとは言い難い状況にあります。市民や事業者、各種団体などと共創の取り組みを行っていくためには“今までどおり”を脱却し、まずは市役所が、職員同士が、“わがこと”として「共創」を実践していくことが必要です。

大田市の現状に対する危機感と、市役所としてめざすべき目的・目標を共有し、変わるリスクより、変わらないことのリスクの方が大きい“いま”から、一步踏み出して、職員間で、各部署間で、そして市役所全体で「共創」しながら同じ方向に向かって共に進んでいくことが求められています。

2 めざす大田市の共創（こうしたい！こうありたい！）

(1) めざす大田市の共創のイメージ

- ・「こんなことしてみたい！」という時には、“相談にのってくれる人”がいて、“応援してくれる人”がいる。
- ・みんなで話し合いながら、みんなで協力して“やってみよう”という雰囲気がある。
- ・いきいきと生きる大人たちの横で、子どもたちが笑顔で遊んでいる。
- ・一人ひとりが幸せに向かって、多様な価値観を尊重し合いながら、“様々な人たちがつながって”、みんながいろんな夢を抱いている。

こんなまちの空気の中で、みんながまちづくりにかかわり、一緒に取り組む姿をめざす「共創」のイメージとします。

○共創に取り組む市民像

【かかわる】

一人ひとりが、“わがこと”として考え、多くの人と関わり、対話し、だれもが主体性を持って次世代につなげるまちづくりに取り組む。

【踏み出す】

地域それぞれの魅力を活かし、新しい発想や、チャレンジ精神を持って、だれもが一步踏み出し、大田の未来を創造するまちづくりに取り組む。

【はぐくむ】

私たち一人ひとりが行動し、このまちを育むことで、このまちもまた、私たちを育んでくれる。ふるさとを愛する気持ちを力に、未来に向かって、みんなで共に歩むまちづくりに取り組む。

(2) めざす大田市役所の共創のイメージ

(大田市全体の共創に向けて、まずは市役所から！)

- ・情報の収集や提供、“つながりづくり”のためにどんどん現場に出かけている。
- ・“日頃からのおつきあい”を大切に、市民や事業者、団体などと積極的にコミュニケーションを図っている。
- ・課題に対し、それぞれの部署が垣根を越えて積極的にかかわり、専門性を活かしてアイデアを出し合いながら、市民や大田市全体にとって最善の取り組みを行っている。
- ・“今までどおりではいけない”という共通認識のもと、変えるため、変わるために、一体となって積極的に行動している。

大田市全体の「共創」に向けて、“まずは市役所から！”という決意のもと、これら
を大田市役所がめざす「共創」のイメージとします。

○共創に向けてめざすべき職員像

【つながる】

職員間のもとより、市民や事業者、団体などと積極的につながり、日ごろからコミュニケーションを図る。

【行動する】

やらないよりはやった方がいいというチャレンジ精神を持って、まず行動する。

【広げる】

職員が自分の経験や体験をもって自分の言葉で共創を語り広げていく。

第3章 共創するために

1 共創の効果

(1) 共創のメリットや効果

【新しい発想が生まれる】

さまざまな人が、多様な視点から意見やアイデアを出し合うことで、新しい発想からより効果的な取り組みが生まれることが期待できます。

【「かかわる」人が増えていく】

今までまちづくりにかかわる機会のなかった人が、共創により、まちづくりにかかわる機会を得ていくことが期待されます。みんなで自分たちのまちのことを考え、一緒に行動することで、より良いまちづくりにつながります。

【アイデアが実現しやすくなる】

行政だけ、事業者だけ、自分だけでは実現できなかったアイデアが、共創により“みんなの得意”を持ち寄ることで、実現できる可能性が高まります。

【成長につながる】

共創は多くの人とかわります。今までかわったことのなかった人や事業者、団体などと積極的にかわることで、新たな経験や知識、柔軟な発想を得ることにつながります。また、お互いの理解や信頼関係が深まるなど、人としての成長につながることも期待されます。



みんながイメージする共創のキーワード

「100人で語る「共創」ミーティングより（R1.7.7開催）」

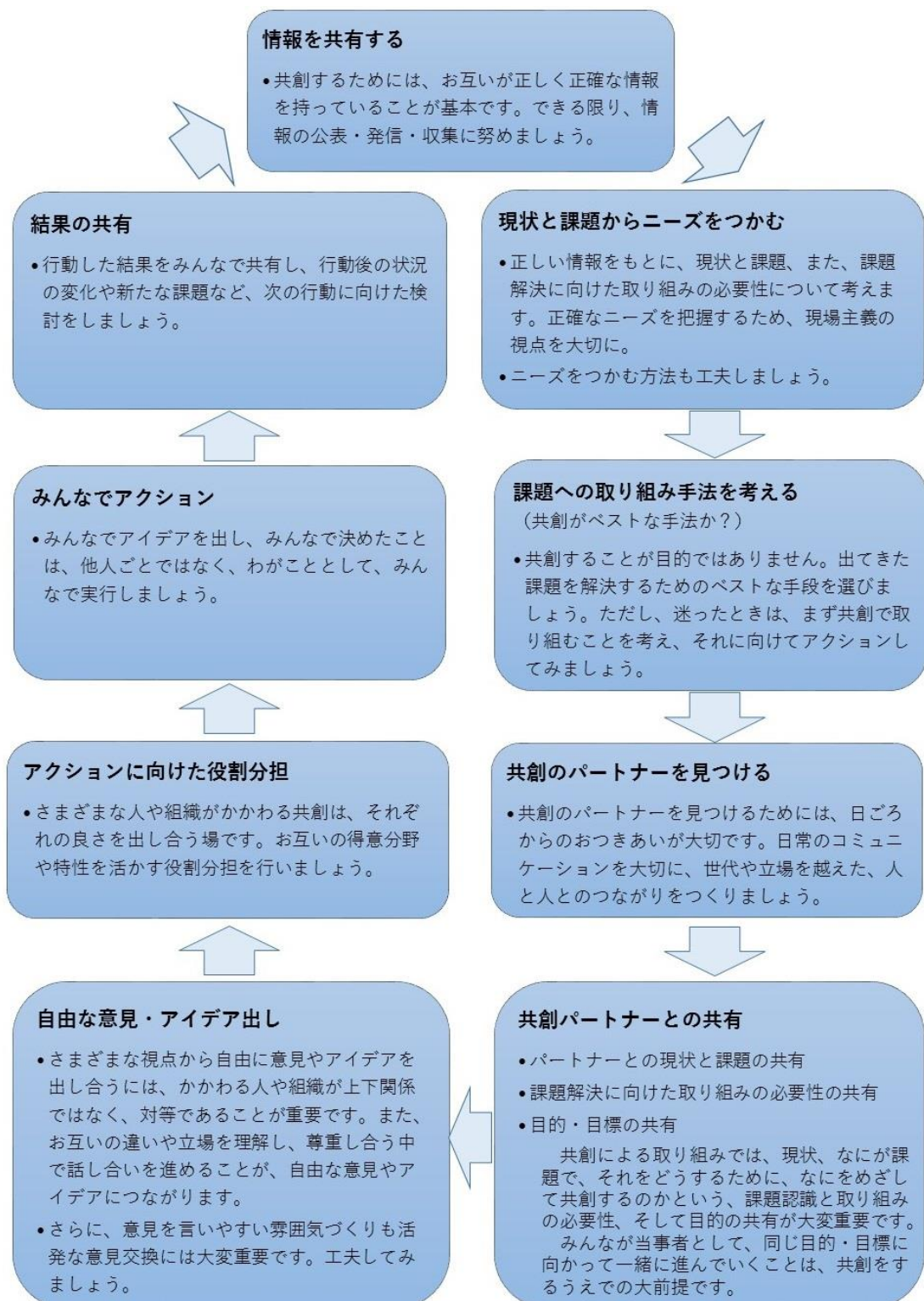
喜び・愛・育む・未来・共有・一体・協力・連携・思いやり・
相互・コミュニケーション・相乗効果・創造・新しい可能性・
自分ごと・多様・作り出す・参加・共同・つながり・越境・対話・応援・
共感・前向き・助け合い・仲間・多世代・協調・利他・チームワーク・
おつきあい・広がり・学び・気づき・尊重・同じ目的・変化・楽しさ

2 共創の基本

(1) 共創を支える情報の共有と見える化

共創のまちづくりを進めるためには、情報の共有が不可欠です。共創に取り組む人たちが、お互いの持つ情報をできるだけ開示し、共有することで、お互いの理解と連携を深めることが大切です。また、市政に関する情報をはじめとした、共創のまちづくりの土台となる情報は、いっそう見える化を進めていく必要があります。

(2) 共創するための基本的なフローと大切なポイント



第4章 共創の輪の広がり

1 共創の理解と実践の輪を広げる

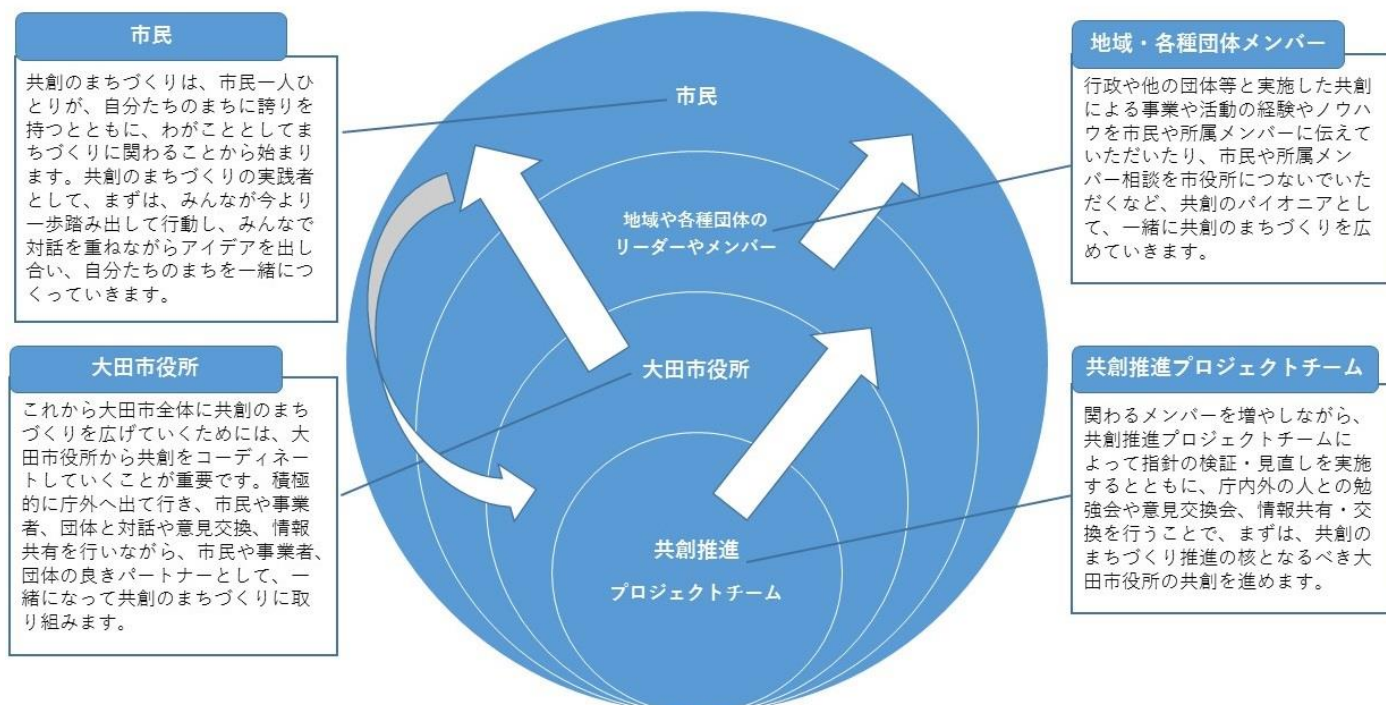
(1) 市役所・市職員の役割

これから大田市全体に共創のまちづくりを広げていくためには、まずは、市職員一人ひとりが共創を理解し、意識しながら、市役所全体として共創の取り組み実行していく必要があります。その上で、市民に対し、市役所から共創をコーディネートしていくことが重要です。市職員は、積極的に現場へ出て行き、市民や事業者、団体と対話や意見交換、情報共有を行いながら、市民や事業者、団体の良きパートナーとして、一緒になって共創のまちづくりに取り組みます。

(2) 市民の役割

共創のまちづくりは、市民一人ひとりが、自分たちのまちに誇りを持つとともに、“わがこと”としてまちづくりにかかわることから始まります。共創のまちづくりの実践者として、まずは、みんなが今より一歩踏み出して行動し、対話を重ねながらアイデアを出し合い、自分たちのまちを自分たちの手で一緒につくり、はぐくんでいきます。

共創のまちづくりの広がりイメージ

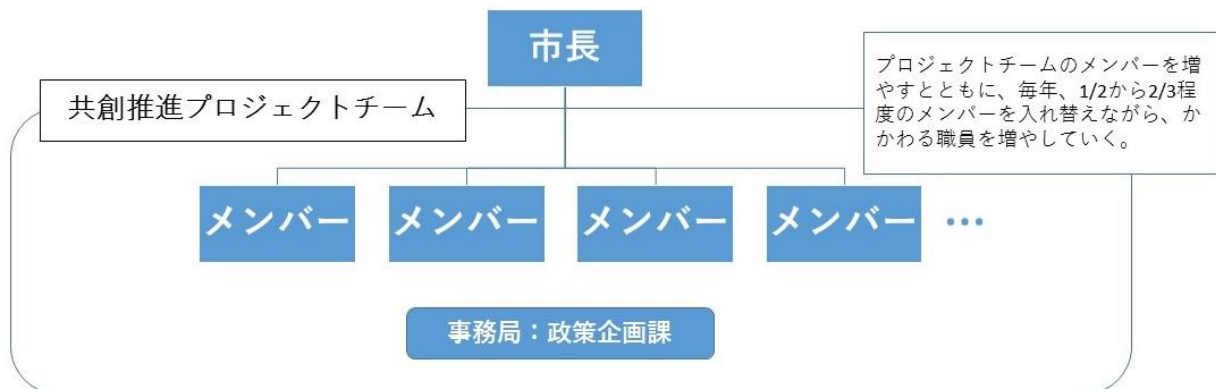


2 共創の輪を広げていく体制

(1) 市役所の推進体制

市役所内に「共創推進プロジェクトチーム」を設置し、かかわるメンバーを増やし
ながら、指針の検証や見直し、共創を広げいくための新たなツールの作成などを行い
ながら、指針の理解促進、共創意識の浸透を図ります。また、市役所内外のさまざま
な人との勉強会や意見交換会、情報共有・交換を行うことで市職員の意識を高めてい
きます。これまで以上に行政内部の横断的な連携を深め、まずは、共創のまちづくり
推進の核となるべき市役所内の共創を進めます。

共創推進庁内体制



プロジェクトチーム活動内容

指針の見直し	共創を進める仲間づくり	庁内勉強会の実施	各種意見交換会等の実施
<input type="checkbox"/> 指針の内容を見直し、大田市の現状にあった、よりよい指針に改訂する。	<input type="checkbox"/> 毎年、プロジェクトメンバーの入れ替えを行い、プロジェクトに関わる人間を増やす。	<input type="checkbox"/> 共創のまちづくりの取り組み事例についての情報共有・意見交換の実施	<input type="checkbox"/> 市民や事業者、団体等との意見交換の実施
<input type="checkbox"/> 指針を見直すプロセスの中で、プロジェクトメンバーの“わがこと”意識を醸成する。	<input type="checkbox"/> プロジェクトチームを卒業したメンバーは、プロジェクトチームサポーターとして、チームの活動に積極的に関わる。	<input type="checkbox"/> 市内の各種団体とのつながり作りの機会の創出	<input type="checkbox"/> 庁外組織・団体等との共創の実践
	<input type="checkbox"/> 庁内勉強会や意見交換会への参加者もサポーターとして加えながら、仲間を増やしていく。		

(2) 共創に取り組みやすい環境づくり

【つながりや対話の機会づくりと情報発信】

広報誌・ホームページ・SNS等、さまざまな媒体を利用した情報提供により、市民に大田市に関わるタイムリーな情報を発信します。そして、人と人との日ごろからのおつきあいを始め、意見交換会やワークショップの開催など、市民・事業者・行政の対話やつながりづくりの機会を積極的に創出することで、相談しやすい雰囲気づくりを行い、意見やアイデアが出しやすく、共創に取り組みやすい環境をつくれます。

【共創の取り組みを共有する】

共創の取り組みにハードルを高く感じることはありません。これから新しく始めることだけが共創ではなく、これまでやってきていることや、既に取り組んでいることの中にも、共創の事例はたくさんあるはずです。

これらの取り組みや、新たな共創へのチャレンジを、さまざまな機会を通じて広く共有し、先例を参考にしながら取り組むことで共創にチャレンジしやすい環境をつくれます。

(3) 共創のまちづくりに取り組む仲間づくり

共創を広げていくためには、共にまちづくりにかかわり、一緒に共創に取り組む仲間づくりが大切です。市民や共創のコーディネートを担うべき市職員が、一緒にまちについて語り合う機会や、地域のことを共に学ぶ機会、地域の行事等を通じた異業種間、世代間などのさまざまな交流を促進し、多くの人がつながっていくこと、また、人と人をつなげていくことで、共創の輪を広げていきます。

指針の策定にあたって

今回、この指針を作成するにあたって、まずは「現状をきちんと認識する」という所から始めました。共創の視点から大田市や市役所を見たとき、できていないことはできていないと認めたくえで、そこからどうあるべきか、どのような状態をめざすか、そのために何が必要かを議論しました。

議論の過程において「共創は行動がすべてではないか。まず行動するところから始まる。」という意見が出てきました。共創するためには、あれこれ考える前に、「まず行動してみる」、「アクションを起こしてみる」ことが必要であり、今、必要なのはそのための“行動”指針であるという結論に至りました。

そして、この結論を踏まえて指針の内容についての議論を進めながら、タイトルを「^{テイク}Take ^{アクション}おおだしACTION！」としました。“Take Action”は、“行動を起こす”を意味しますが、「Take おおだし ACTION！」には、「**みんなでこの行動指針に示した“大田市の共創”という行動を起こす！**」という決意を込めました。

これから共創のまちづくりを進めていくにあたり、私たちは、まず“行動を起こそう”という雰囲気をつくり、そしてそれを広げていきたいと考えています。わたしたちのまち「大田市」を次の時代に引き継いでいくため、おおだの子どもたちの未来のために、ぜひ、みんなで「できることからやっていく」「今日からやってみる」という気持ちで、いっしょに共創のまちづくりに取り組みましょう。

大田市共創推進プロジェクトチーム

大田市共創推進プロジェクトチーム

第1期（2019年度）

大田市職員 岡田真理子 大田市職員 柿本 将人 大田市職員 窪田 勇人

大田市職員 清水 拓生 大田市職員 白坏佳与子 大田市職員 三島 貴子

大田市職員 室田 等 大田市職員 和田 薫

事務局：政策企画部 原田 修

政策企画課 伊藤 昌彦 岩谷 和美 川村 久視 丸山 怜志